

大正十二年十月二十六日

天龍艦長心得小栗信一

海軍省軍務局長大角岑生殿

震災関係報告件

一、震災救護任務實施經過

月	日	行	動	記	事
---	---	---	---	---	---

九月二日

午後八時横須賀向出港

午前十時出動命令受々直々乗員呼集ヲ行々出動準備ヲナシ左記救護準備作業ヲ行フ

一、救護用食糧品搭載(乾麴三貫匁、鮫魚肉三貫匁、布面板)

二、大天幕二張、小天幕十張搭載

三、救護用治療品三十七何搭載(横須賀鎮守府行)

四、救護班(軍醫科官)看護長官長二名、看護士三名、看護婦三名

10.30
軍務

0224

九月三日	航海	<p>(所用治瘡品共)</p> <p>五午後七時諸準備完成</p> <p>六便乗者二十名乗艦(人名畧)</p> <p>一九月三日午前五時五分海軍次官ヨリ呉鎮長官宛左ノ電報ヲ傍受ス天龍及第四駆逐艦ハ大阪ニ糧秣廠發送糧食品ヲ搭載シ芝浦ニ面航セシメラレ度シ</p> <p>二三日午後三時四分海軍次官ヨリ呉鎮長官宛左ノ電報ヲ傍受ス前電天龍及第四駆逐艦ハ大阪ニ糧秣廠發送ノ食糧品搭載ハ取リ止メ大至急品ハ面航ヨリ取リ計ハ度シ</p> <p>三右傍受對スル刻令ヲ待タズモ何等ノ刻令ニ接ヤス</p> <p>四三日午後ヨリ横須鎮守府ト連絡ヲ取リ計リタル横須鎮外ニ達スルマデ遂ニ無線連絡トレス</p> <p>一横須鎮外ニ於テ鎮守府長官ニ予定ヲ變更シ品ハ向</p>
九月四日	午前八時品川着	

0225

九月五日	午前六時横須賀出港午前八時横浜着	午後三時品川着	午後四時横須賀着	省
九月五日	午前六時横須賀出港午前八時横浜着	午後三時品川着	午後四時横須賀着	省

旨信號シ午前八時品川着

二直ニ海軍省ニ出頭任務其他ニ付左記通リ協議ス

イ治療品及救護班ヲ横須賀鎮守府ニ渡ス

ロ食糧品ヲ神奈川縣知事ニ渡ス

ハ午後横浜警備ノ任ニ當ル

ニ横須賀入港後鎮守府ニ出頭前項事項ニ関シ打合セテ

行ニ治療品及救護班大天幕一小天幕五ヲ渡ス

四便乗者手名ヲ品川ニ上陸セシム

一横浜入港後山城春日五十鈴援助ヲ受ケ救護用ト

シテ搭載セル食糧品全部大天幕一小天幕五毛布百枚

ヲ神奈川縣知事ニ渡ス為ニ陸揚海軍陸戰隊司令官渡ス

ニ山城艦長ト協議シ一般陸揚品ノ揚陸作業夜間警

九月六日	横浜泊	戒任當ル 二般陸揚品、陸揚作業税、埠頭附近、夜、棧橋敷 備作業及夜間警戒ニ従事ス
九月七日	午後一時半清水 向ヶ出港	一、午前中棧橋仮設作業、一般陸揚品陸揚作業ニ従事 二、避難民二千五十名ヲ收容シ午後一時半清水向ヶ出港
九月八日	午前七時横浜 向ヶ出港	一、午前二時避難民揚陸作業終了 二、横浜於テ午後五時ヨリ避難民千五百名ヲ收容ス午後七時 終了
九月九日	午後三時横浜着	三、午後八時半聯合艦隊司令長官ヨリ左記訓令ヲ受ク 「又、八時半ニ假着上吏便乗者ヲ搭載シテ清水面航シ、要 ノ揚陸終了、横浜假設指令ヲ待ツ可シ 一、清水入港後直ッニ避難民揚陸従事午後一時終了

0227

九月十日	午前十一時半横浜	二、午前六時ヨリ神奈川縣知事行々靜岡縣知事發送蔬菜類(千八百九十個)三万七千貫、靜岡縣救護班(六〇名)及治療材料搭載、午前十一時十五分終了
	午後六時横濱着	二、横浜入港後午後六時三十分靜岡縣救護班上陸セシム
九月十一日	横浜碇泊	一、午前六時前記塔載品揚陸ヲ行フ午後六時終了
		二、午後九時聯合艦隊長官ヨリ左記刻令ヲ受ク
		「天竜横浜避難民ヲ来々便宜横浜救護清水ニ寄港シ揚陸セシメタル後兵ニ復収ス可シ行動豫定シ報告ス可シ
		三、午後九時聯合艦隊參謀長ヨリ左記電報ニ接ス
		「貴艦兵ニ飯港ノ際前夜外火坂ニ神ノミテ寄港事ニ豫定サレタシ
		四、前記刻令ニ基キ左記行動豫定ヲ報告ス
		「十二日午前將品川ニ向ケ幾十四日横浜ニ回航十五日午前十一時

九月十二日	午前六時横濱着 午前七時品川着	清水に向て数日神戶經由十七日吳着
九月十三日	品川碇泊	特別任務として東京方面罹災状況調査
九月十四日	午後五時品川着 午後六時横濱着	右 都内便乗者士官二名、都外便乗者三名品川に乘艦 令
九月十五日	横濱碇泊	避難民ヲ收容し清水面航豫定ナリトモ、候不良爲ニ出立致シ
九月十六日	午前七時横濱着 午後五時清水着	横濱に於て避難民三名收容清水着、午後六時揚陸終了 都内便乗者士官二名、士官一名横濱に乘艦
九月十七日	午前七時吳着	吳行都内便乗者九名、除き便乗者五名都内退艦 神行便乗者全部清水に退艦、又、神行便乗者取止無直 行ス
九月十八日	午後三時吳着	吳着後便乗者退艦

本艦臨時乗組員横濱村田軍曹以下十八名横濱留宿、并々参謀長ノ命ヲ蒙ケ服務ス（中旨指令ノ儘横濱留宿ノ留宿ニナリ）

ニ震災救護ニ要シ燃料及其他ノ消耗品

別表ノ通り

ニ傷病者ノ診療實施ノ經過及其成績

艦内交通至便ノ箇所(後部彈藥供給所)ニ臨時救護所ヲ設
置シ小規模^様ナカラ一般傷病者ノ治療及收容ニ任シタリ遭難者
ニシテ地方^様難志スモチレハ因ヨリ危篤患者在ルナク又自
横浜至清水短時間海上輸送ニテ十分治療ヲ施スヘキ餘
ナク遺憾^様ノ點多カリシモ當時ノ如キ非常時ニ於テ人心鼓
舞緊張ハ到底豫想以外ニシテ相當重病者^様在リタル驚
ク^様キマアリ故ニ前記救護所ノ收容看護シタル傷病者ハ毎
回五十六名ヲ下ラス

傷者大部分ハ挫創及大傷ナリシモ危急ノ際簡單ナル應
急處置ヲ施シタルニシテ其後加療機ヲ得サルモノハ何レモ

大正十二年九月東京横濱地方震災救護任務中行走表

人任	被救者地名	投錨	乗込	最大速力	最大速力時間	標準表軸馬力	運轉時數	燃料			燃料	行動用油										平均排水量	備考							
								左舷軸	中央軸	右舷軸		重油	軽油	合計	重油	軽油	合計	重油	軽油	合計	重油			軽油	合計					
田代	2-2	高川	9-4	12	20	10804	8.750	35-12	44310	0	0	0	0	1600	1600	42	0	0	0	20	140	140	0	60	200	200	14	10	二機使用(中央機)	
"	9-4	高川	9-4	12	15	1-0	3863	2.550	2-2	9230	0	0	0	0	40	40	50	0	0	0	10	15	20	0	0	20	30	14	9	全上
"	9-5	高川	9-5	12	12	1-5	2025	1.780	1-5	10705	0	0	0	0	30	30	40	0	0	0	10	10	10	0	0	10	20	14	11	全上
"	9-7	高川	9-7	12	20	5-4	10535	2.150	6-2	78105	0	0	0	0	30	30	2.6	0	0	0	20	35	25	0	5	30	70	14	2	二機使用(中央機)
"	9-8	高川	9-8	12	15	2-2	4972	2.300	8-2	89740	0	0	0	0	20	20	3.9	0	0	0	20	30	30	0	5	35	80	14	2	二機使用(中央機)
"	9-9	高川	9-9	12	20	5-4	10191	2.150	6-2	78105	0	0	0	0	30	30	3.5	0	0	0	20	35	32	0	5	37	70	14	2	二機使用(中央機)
"	9-10	高川	9-10	12	20	5-5	10446	2.150	6-2	78105	0	0	0	0	30	30	3.4	0	0	0	20	30	30	0	5	35	70	14	2	全上
"	9-12	高川	9-12	12	12	0-5	2787	1.600	1-3	10625	0	0	0	0	40	40	3.2	0	0	0	10	10	15	0	0	15	20	14	1	二機使用(中央機)
"	9-14	高川	9-14	12	12	1-7	2012	1.780	1-3	10705	0	0	0	0	40	40	3.1	0	0	0	10	10	15	0	0	15	20	13	1	二機使用(中央機)
"	9-16	高川	9-16	12	20	7-4	9737	2.750	8-2	78105	0	0	0	0	30	30	3.2	0	0	0	20	35	35	0	5	40	80	14	1	全上
"	9-17	高川	9-17	12	20	3-0	10020	2.750	30-5	339140	0	0	0	0	100	100	4.2	0	0	0	20	20	30	0	15	45	30	13	1	全上
累計																														
記	上記燃料費額中重油四〇〇噸ハ告知豫算外ニシテ搭載セルモノナリ																													
率	又標準表軸馬力排水量四〇〇噸出港後二月ヲ標準セルモノナリ																													

五十鈴第 四六 號

大正十二年十月二十四日横濱港

五十鈴艦長石渡武



海軍大臣財部 虎殿

震災関係報告ノ件

軍務局

設備

一、震災一般状況及之ニ對シ當時執リタル處置並ニ從業人員ノ
横須賀軍港十一番浮標ニ繫留中當日午前土時五十五分頃恰
ニ試運轉力又ハ高速運轉中ノ如キ異狀ヲ振動ヲ感ス
忽チ吉倉港町一帯ノ崖山崩壊シ工廠岸壁ハ波狀ヲ
呈シ海水ハ急激ニ減退シ大地震ノ發生ト海嘯ノ襲來ヲ
想像セラルモノアリ依ツテ危急ニ備ヘ且ツ人心ノ平靜ヲ
確保セシメタメ大凡諸項ヲ實施ス

10.30

軍務



中務省

0233

一、至急下火

二、出港用意ヲ命シ總員ヲ出港配置ニ就カシム

三、ホーサーヲ浮標ニ取ル

四、横須賀附近ニ家族ヲ有スルモノ全部ヲ上陸ヒシメ自己家族

ヲ救護セシム

五、陸上防火隊(三八名)ヲ派遣ス(翌朝上陸収艦)

六、被害 ナシ

三、震災ニ関シテ本艦ノ行動及之ニ要スル燃料其他消耗品

数量

出港地及 出港日時	目的	目的地及 入港日時	所要燃料及其他消耗品数量				作業概要
横須賀外一日 午後六時八分	三、内港ヨリ三邑 ニ移地変更	横須賀三邑 午後六時四十分	重油(噸)	重油(噸)	軽油(噸)	軽油(噸)	三、横須賀外一日 午後六時八分
左右 二日	横須賀及横須賀 海上警戒	横須賀 二日 午後六時四十分	二、六	四、〇	七、〇	二五、〇	九、〇
横須賀 三日 午前七時一分	左 右	横須賀外三日 午前七時四十分	六、八	五、〇	五、五	一四、〇	五、五
							人員四七名

0234

震災火災関係部隊及人員の行動

横濱八日 午前八時	炭水糧食 搭載	横濱八日 午前八時	直三炭水糧食 搭載準備
横濱八日 午前九時	避難民安否 確認及糧食搭載	清水三日 午後四時至五時	避難民揚陸
清水三日 午前八時	救護物件輸送	横濱八日 午前八時	糧食陸揚
横濱八日 午前十時	横濱港倉庫警備 生路上警備	横濱二日 午前七時至八時	
		一五、五〇 一六、〇〇	
		一〇、〇〇	
		六、〇〇	
		二四、〇〇	
		四、〇〇	
		一、〇〇	

記事

月日	期間	派遣先	派遣員数	作業種類概要
九月一日	昼夜	鎮守府前	三八	鎮守府前集合 防火隊
二日	昼夜	左 磯子横濱方面	六〇 三八	鎮守府前集合 陸揚及トミヤ陸上警備
三日	昼	磯子横濱方面	三八	陸上警戒及救難
四日	昼夜	横濱	三〇	左 救護物件陸揚
五日	左 右	左 右	四三 五三	救護物件陸揚 左 右
六日	左 右	左 右	五三 〇〇	左 右
七日	左 右	左 右	五三 〇〇	左 右 及所屬作、右

以上、外避難乗機者
ノ整理、保護、多ク特
救災七名ヲ山下町海岸
ニ派遣ス

二日陸揚隊正午頃横濱
三日ノ陸揚隊正午頃陸
(別紙報告書参照)

四、敬告備

九月九日	昼	横濱	一四	税関棧橋修理	
十日	昼	横濱陸上	二九	棧橋修理及掃除	攝政官殿下御来 用棧橋
十日	昼	同右	三二	警備隊	殿下、張、御来、 際、
十日	昼	横濱港務部	三四	税関棧橋修理	

自九月二日
至九月八日

横濱警備

自九月八日
至九月二十日

横須賀

自九月二十二日
至十月二日

自十月二日
至十月六日

横濱警備

救護物件輸送陸揚

月日	作	業	使用人員	記事
九月五日	横濱三於、商港、 仲、陸揚、 從事、人	救護物	四〇	
九月七日	左	右	五〇	

0237

九月七日

横濱ニ於テ高嶽ヨリノ救護物
件陸揚ニ從事ス

五

0

九月五日

清水ヲ横濱賀ニ托物件輸
送陸上ク

米 九七〇俵
麦 二七〇俵

生糸 三三〇俵
漬物 一〇〇俵

乾物塩 一四〇俵
砂糖 一四〇俵

搭載積出共ニ
本艦乗員ニ行ク

人員ノ輸送

九月二十日

自横濱賀
至清水 六十六名 (避難者)

九月二十日

自清水
至横濱賀 三十名 (建築部行職云)

五、救護ノ爲ノ物資ノ供給

横濱ニ於テ避難民及横濱賀清水間建便乗ノ避難民ニ給

與セシモノ左記ノ如シ

品種	數量(貫)	品種	數量(貫)
乾麴飽	三六九七〇	白米	一八、九七〇

割麦	〇、九九〇	生野菜	七、二六〇
生牛肉	三、六三〇	三本行	〇、三九六
生詰牛肉	二、四〇〇	塩	一、〇〇〇
鶏卵	一、七八二	第三種漬物	〇、六〇〇

合計 九、五九八

大傷病者ノ診療實施ノ經過及其成績

ナシ

七、應急通信装置

自九月七日 陸上ノ通信連絡ノ爲信子員二名電信員一名ヲ
 至九月八日 碓泊中コレヲ凡ニ派遣ス
 自十月四日 通信連絡ノ爲メ陸上ニ役設信子所ヲ設置シ五十鈴ノ敷五
 至十月二十日 毎三日 通信連絡ノ爲メ陸上ニ役設信子所ヲ設置シ五十鈴ノ敷五

水信子員一名
 電信員一名
 三名
 派遣連絡日當直セシム

ハナシ

九、所見

九月二日夜ヨリ三日ニ至ル磯子方面ニ派遣ノ警備隊ハ當時極度ニ
流言飛語ニ畏怖セル住民及避難民者ノ安定混乱ノ防止及
不逞行爲爲止等ニ至大ノ効果アリタリ

横浜ニ於ケル警備衛及乗船者ノ整理ハ配船関係上多
少ノ混雜ヲ免カレサリシモ能ク事故ヲ防止シ秩序ヲ維持
シ得タルヲモト信ス

(終)

0240

陸
戰
隊
報
告

(宛横鎮長官)

癸
五
十
鈴
體
長

0241

九月二日午後十一時三十分陸戰隊一個隊ヲ礮子根岸間ノ
八幡橋ニ上陸セシ同地市民代表者ノ談ニ依ルハ市民ノ
大部分根岸及礮子附近ニ避難シ居リ二三百名ノ不逞
鮮人附近ノ山地ニ潜伏時々部落ニ出入被害多シ市民ハ
之ヲパルチザント稱シ怖ルコト甚ク依テ本隊ハ其市民
ヲ安撫セシムル必要ヲ認メ避難民ノ多キ地方及ニ被害大
ナル地方ヲ喇叭ヲ吹奏シツ、行軍ス至ル處市民歡呼シテ
之ヲ迎フルヲ見ルモ余程不安ニ能ハレ居タリシモノト認ムル
避難民ノ數五六万人官憲ノ保護トシテハ巡查ニ三名ニ過キ人
主トシテ在郷軍人青年會等警戒ニ任ス
尚流言ニ依ルハ程々谷附近ニ於テ悪化セル鮮人鐵道工夫約
二百名ハ在郷軍人ニ追ハレテ礮子方面ニ潜伏スト又噂ニ
ヨレハ不逞鮮人本部ハ東神奈川方面ニ在ルモノ、如ク時々

二三百名一隊ヲ爲シテ龍衣ヲト

礮子在任現役平岡歩兵大尉ノ言ニ依テハ不逞鮮人カ

火藥庫ノ爆發シ企テ或ハ五十名以上ノ集團ニテ避難民

ヲ脅迫ス等ノ事ハ凡テ流言ナリ唯信ヲ置クハト在郷軍人

(上等兵)ノ言ニ二日朝鮮人四十名ノ集團程々谷戸部方面

ニテ子供ヲ殺害シタリトノ事ニテ市民怒リ鮮人十三名ヲ殺

戮セリト當礮子方面ニ於テニ三名ツノ組ヲ作シ家屋ニ放火シ

市民ノ爲殺サレタルヲ自ラ目撃セリ鮮人ニシテ酒精露ヲ所

持シ全市ヲ燒キ盡スト云ヒ逃レタルモ聞キアリ第一夜礮子

方面ヲ六名一組トシ龍衣ヒタルモノ短銃ヲ所持シテ横行セル

モノ又一名ノ社會主義者ハ四名ノ鮮人ヲ刺^指喉^指レテ暴行シ

ナサシメタル爲メ市民ノ爲ニ殆ト半殺ニセラル解放セラレタル根

岸刑務所ノ囚人ハ凡テ市民側ニ味方シ盛ニ鮮人ヲ脅

懲セリ

避難民中根岸磯子方面ニ逃レルモノハ比較的食糧等ニ窮セサルモ公園・根岸競馬場等避難シタルモノハ糧道ヲ絶タレ困難ヲ感レツハアリ目下知事市長等中心人物ナキヲ以テ統一ナク支離滅裂ノ状態ニアリ

九月三日 昨夜上陸シタル陸戦隊ハ今朝七時三十分磯子ヲ發シ中村町伊勢佐木町ヲ經テ市内全般ヲ巡視セリ

流言等ニ日ニ同シ各所ニ於テ鮮人ト見ハ容赦ナク殺害シタルモノ、如シ

安河内知事ニ面談同知事ヨリ聞クトコロニヨレハ最も困難シツハ、正ハ糧食ナリ目下米渠會社ニ米八千袋市ノ倉庫ニ多量ノ貯藏アリ而者共開放シ自由ニ持テ出スニ任セ居レリ之ヲ爲メ、今秩序ナク奪ヒ合ヒノ態ナリ在郷軍人

青年會等武裝シテ秩序維持ニ努メツ、且モ効カナク往々
死傷者ヲ出シツ、且モ現狀ナリ、コノ狀況ヲ持續スルハ米ハ三
日間支持シ得ル見込今、處大阪方面ヨリ五千石輸送方
交渉済ナリ（但、東京方面ト分割供給ノ事トナラン）
警備ニ就テハ尤、如ク陸軍ト交渉済

(1) 今三日中騎兵五十騎東京ヨリ來着ス

(2) 甲府守都宮、佐倉、高崎ヨリ合計一個聯隊位今夜中
到着シ得ル予定ナルモ疑ハレ

(3) 赤十字社全滅ノ爲メ衛生材料欠乏、鎮守府ノ助カヲ
仰キ度キ旨申出アリ

市役所助役ニ面談要領尤、如シ

市役所使事務所ヲ中央職業所ニ設ク

飲料水ハ井戸水道ノ一部及貯水池ヨリ配給シツナリ

災害ニ對スル處置ニ就テハ副ニ方針確定ニ居テ
安河内知事ノ不逞鮮人ニ對スル所見ハ平岡大尉ノ報
告ニ畧同シ

(終)

0246

軍務局

濱警報告第三號

大正十二年十月六日 横濱港

五十鈴艦長石渡武章

海軍大臣 財部 彪殿

横濱方面警備部隊任務報告

一、六日午前九時半第五駆逐艦帰校

二、午前十時特務艦尻矢入港十四番浮標ニ繫留午後二時ヨリ

救護品(三〇〇觔)積卸ヲ開始ス

三、午後二時半特務艦野島載荷(建築材料)積卸ヲ終リ

出港 一般ニ荷役ハ順當ニ行ハレツツアリ

四、高港在泊艦船九通(六日午前調)

第一區 湖南丸、恭陽丸、あんど丸、第三大信丸、

泰山丸、第四大島丸、華南丸、乃共同丸

0247

千代丸、帝海丸、神繩丸、小笠原丸、孟買丸、
羅州丸、仁昌丸、みかじ丸、

第三區

富士丸、三弘丸、ナムサン(英)、ソニム(米)、天洋丸、

横濱丸(港)、ヒロウテス(英出港)、長崎丸(出港)、

高麗丸(出港)、筑前丸、アレゲデントセラーソン(米出港)

尾矢、

第四區

愛媛丸、ヨナ(諾)、カプラム(米)、興祿丸、

康野丸、福洋丸、富士丸、インゲアンアロー(米)

スタンダードアロー(米) 野島(出港)

(終)

0248

濱警報告第四號

大正十二年十月七日橫濱港

五十鈴艦長石渡武章

海軍大臣財部彪殿

橫濱方面警備部隊任務報告

一、七日午後一時頃矢載荷(收護品三〇〇底)積卸ヲ終リ横須賀
ニ向テ出港

二、當港在泊艦艇ノ通(七日午前九時調)

第一區

湖南丸、華南丸、乃共同丸、千代丸、帝海丸、

仁昌丸、みかど丸、第三真盛丸、帆富丸、

白鳳丸、貴船丸、

第二區

富士丸、三弘丸、ナムサン(英)、ソニム(米)、

五十鈴、天洋丸、横濱丸、筑前丸、尾矢、

0249

富丸、孟買丸、長沙丸、泰山丸、夕張

第五信丸、アングス丸、第四大島丸

第四區、愛媛丸、興祿丸、廉野丸、福洋丸、

インデアニアロー果、スタンダード、ロース、加州丸、

エルドクワダ

記事港務部より取調へし處ニヨレハ午前九時ニ港回
富港在泊艦艇、現在調へら施行スノ事、

右報告ス

(終)

0250

海警報告第六號

大正五年十月九日 横濱港

五十鈴艦長石渡武章

海軍大臣 東 部 彪 殿

横濱方面警備部隊任務報告

一九日午前十時三十分第三駆逐艦帰投

第一課
第二課

(終)

0251

秘第百七

大正十二年十月三十一日能員

千歳艦長

海軍省軍務局長大角岑生殿

震災関係報告件

本月十二日附軍第七五一號申進し係る本件

本艦関係事項別紙通り之

右報告ス

(別紙参考)

(終)



0020
新務

0252

震災関係報告 千歳艦長岩崎 猛

大正十一年九月十三日 吳鎮守府司令長官ヨリ左ノ訓令ヲ受領ス

一、其ノ船、東京方面、伊豆大島、小笠原島、房州方面、震災救護物資輸送ノ爲成ルヘク速ニ出港、高根、大阪ヲ經テ東京、灣面航スヘシ

二、輸送ニ関シテ、吳海軍需部長、愛媛縣知事、大阪府知事等ト協議セ成ルヘク便宜ヲ與スヘシ

三、東京灣着後、輸送作業ニ関シテ、直接聯合船渠司令長官ノ指揮ヲ受クヘシ

毎

日

0253

四、行動ヲ豫定シ報告スヘシ

右訓令ニ基キ別表第一ノ物件ヲ搭載シ五月午後
五時五分兵庫發今十一時堀江灣、飯泊風雨ノ為メ
翌十四日午後二時出港三時高浜着直、救護品
搭載ヲ始メレモ風雨強キ為ニ午後五時半中止シ前
飯泊地ニ向ケ發午後七時着十五日午後二時風雨
止ミレリ以テ高浜ニ面航別表第二物件ヲ搭載シ午
後五時半大阪ニ向ケ高浜發ヤ六日正午大阪築港
着午後一時半兵庫發府司會長官ヨリ左ノ無電訓
令ヲ受領ス

大阪府ハ小笠原方面救護物資輸送ニ為持ホ

0254

樽元ヲ派遣スル事トニ決セシニ依リ農長ニ要官ハ割
合セシ同方面ヘノ輸送ニ行フニ及ハス伊豆大島
房州方面ニモ同船ヲ運搬スル様府當局
ト協議スヘシ

右訓令ニ依リ大阪府臨時輸送部ヲ訪ヒ船舶班長
佐香源一氏ト協議シ府ノ物品ハ搭載セス尚大
阪府内務部長ト協議ノ結果小笠原島ヘ小樽
凡テ七日、房州大島ヘ永安凡テ一日、伊豆ノ鹿山凡テ
一日、横濱賀ノ海祥凡テ九日何レモ大阪府ノ決定ト
ナシ此等ノ方面ニ海軍艦船ヲ要セザル事トナシ
午後清水百噸ヲ補充（大阪市ヨリ寄贈）シ大阪市

毎

日

0255

ヨリノ輸送物件別表第三ノ通り積載午後九時横
須賀ニ向ケ發海上平穩ナリ日午前ナ時横須賀着
軍需品ノ陸揚ヲ開始シ午後三時終了今三時半
出港六時ヨリ着聯合船隊司令長官指揮下
ニ入り特務艇富士及第二船隊司令部ヲ訪ヒ陸揚
品ノ折合セツルナ
十九日午前九時百噸貨船六隻来リ正午積出し
テ陸揚シ兵員百名ヲ貨物ト共ニ陸上ニ派遣シ比
叡兵員五十名ノ援助ヲ得テ午後五時芝浦ニ
陸揚ヲ完了ス
午前十時左ノ陸揚ヲ受領ス

0256

聯合船隊参謀長發

櫻津、千歳、第三船隊参謀長

第三戰隊司令官、横須賀参謀長

宛

當方面ノ用務終リ莫及佐世保方面ニ取港スル船、部内者同家族並ニ島川、横兵又ハ横須賀ヨリ清水ヘハ避難民ヲ乗セ清水並ニ大阪又ハ神戸ニ寄港セラレタレ其内櫻津ハ横須賀及島川ヨリ千歳ハ横兵ヨリノ方ヲ便乗セシムルトニ致シタレ各船船ハ行動決定出来次第聯合船隊、第二船隊及第三戰隊方司令全部ニ並ニ海軍省、横須賀鎮守府ヘ通知アリタレ

毎

軍

0257

右に依り本船ノ行動ヲ左ノ如ク豫定ニテ日午前
各部ノ通知ス

九月二十日午前七時半品川發金丸時横濱着午後四時發

金丸 二十日午前六時清水着淺陽經り次第發

金丸 二十日午後四時神戸入港

金丸 二十日午前神戶發途中改泊ニテ六日吳着

九月二十日品川及横濱方面ニ在リテ救護作
業ニ従事スル海軍船艇部隊ニ侍従武官シ
差遣セラル、シハ午前十時十五分所轄長以上
第二船隊司令長官旗形金剛ニ参集船越侍
従武官ヨリ左記御沙汰ノ傳達アリ

0258

天皇陛下ト、オカセラレテ、今回ノ大震災ニ當
リ敬養備及收護ノ任務ニ預ル聯合艦隊司令
長官以下一同、對シ深ク苦勞ヲ思召サレ奉
職ヲ差遣セラレ其ノ状況ヲ實視シ来ルヘキ旨
御沙汰アラセラル

九月二十日午前七時品川發九時半 横浜入港
第三区、投錨第三艦隊司令官部ヨリ千歳便乗
者、僅ニ三名ナリシハ司令官部ニテ千歳清水
寄港ヲ取止ムル旨陸上各部ニ通知セラレテ遂ニ
一名ノ避難便乗者ナレ依テ神戸ニ直航ス
本行動中所要燃料其他ノ消耗品別表第四ノ如シ

毎

日

0259

所見

兼船以來一ヶ年半来々西之具港外に出デタルコトキ
兵員ヲ有シ昨年十月以來行勤セシコトキ
亦船より人事故頻發ノ縣念シタルモ能ク暴
風雨ト戦ヒ機畧ヲ制御シ衛生状態良好ニシテ
善ク任務ヲ果スコトヲ得タルに部下兵員一同奮
勵ノ効ス所ニシテ承職ノ満足トスルナリ

(終)

0260

別表第一

救護品搭載表

軍艦千歳

品名	数	数	数	数	数
揮發油	箱	四	五	八	〇
古着	〃	四	五	八	〇
帆布	疋	六	〇	〇	〇
其他	箱	四	五	八	〇
公船運送小倉	同	六	〇	〇	〇
郵便物		七	八	〇	七

記

呉ノ子搭載サトウジ

事

貴重及貴重品

別表第二

救護品修載表

軍艦

品名

船名

数量

記

事

右着其他

同

九七九

愛媛縣

長崎

修載

修載

修載

0262

別表第三

校護品修載表

軍艦千歳

品名 数量

記 事

白米 俵 五八

大阪より修載以下同

醬油 樽 四

正 諸 同 参五

炭 俵 一

其他 同 式式

0263

別表第四

行動用燃料

消耗品

所要数量

品名	教称	数量
燃料	噸	四四〇
系	野	五五八
一號	立	五八八
五號	立	九〇〇

記

事

0264

八五三

大正十二年十月三十日 吳

勝力艦長男爵上村從義

海軍省軍務局長太角岑生殿

一、軍艦勝力震災関係報告

一通

大正十二年十月十日軍第七五一號ニ依リ

右、提出ス

(別紙一通添)

終

0265

軍艦勝力震災関係報告（大正十三年九月）

ナニ

三、震災ニ関シ移動セル艦船部隊人員等ノ行
動及艦船ニアリテハ之ニ要セシ燃料其他ノ
消耗品数量
（一）行 動

年月日	三十九八	品川	横須賀
全	一四	品川	横須賀
全	一九	品川	横須賀
全	一二	品川	横須賀

記 事
高浜、今治、經由

三十九六

吳

(四) 所要燃料

第二種煉炭

壹六壹噸

(ハ) 所要消耗品

五號礦油

四〇參立

一號礦油

貳〇立

系屑

五八升

(三) 人員

九月二十、二十一兩日人員延數一五三名ヲ

横須賀鎮守府ニ派遣シ復舊作業ニ

從事セシム

四、警備救護物件ノ輸送陸揚配給及人員ノ輸送等實施ノ經過及其成績

0267

(1) 救護物件ノ輸送及陸揚

九月九日高浜ニ於テ左記物品ヲ搭載ス
出荷人、愛媛縣 荷受人、東京震災救護事務局

玉葱 三〇二俵

漬物 一〇五樽

慰問品其他雜貨 三四二個

果物 一五五箱

釜鍋 四一個

愛媛縣救護部員用品 一九個

九月十四日品川沖着、天候不良ト「ライダー」

不足ノ為陸揚遲延シ今月十七日陸揚了ス

但「ライダー」ヨリ棧橋ハ陸揚ハ人夫其他

ハ艦員ノ手ニ依レリ

0268

六、七、八、九

ナシ

以上ノ外吳軍需部ヨリ横須賀軍需部
毛布式十枚ヲ輸送ス
人員輸送
高次ヨリ芝浦迄愛媛縣救護部員縣理
事官外五名ヲ輸送ス
五、救護ノ為物資ノ供給罹災者ノ收容等實施
ノ經過及其ノ成績
九月十九日横須賀海軍病院ニ藥品ノ一部ヲ
供給ス

終

02691

大正十二年十月二十七日 吳港

明石艦長代理

海軍少佐 下村敬三郎

海軍省軍務局長 大角岑生 殿

震災関係報告件

軍第七五一號三係ル本件別紙通

右提出ス

(別紙添)

(略)

10.29
印務

0270

軍艦明石震災関係報告

一救護物件輸送関シ要セシ燃料及消耗品

品名 数量 記

石炭 三二七噸

外部油 七〇〇立

内部油 四八九立

系屑 四五〇斤

二輸送物件

品名 数量 輸送元 輸送先

軽便機関車 二台 吳鎮守府 横須賀鎮守府

吳、横須賀間往復要シタルモノ

事

0271

三棉鑛油	九、〇〇〇、五	吳海軍軍需部	横須賀海軍軍需部
系膏	一〇、〇〇〇、斤		
重鉛板	四〇〇〇、枚		
釘	一六、樽	吳海軍建築部	横須賀海軍建築部
木炭	二噸		
コーラス			
醫療品	三二箱	吳海軍病院	横須賀海軍病院
被服(既布)	二二梱	吳海軍軍需部	海軍經理部後
圓板	八枚	石川	海軍大學校
三輸送人員			
小吳至横須賀	五名	(部内者三 陸軍修役二)	(部内者家族一)

0272

回横須賀至吳 一三名（部内者五
回輸送實施、經過並成績

九月二十九日吳發十月二日午前九時横須賀着
後直ニ輸送人員次々物件陸揚ニ着手ス整
便機關車陸揚作業外各部兵人夫不足ノ
爲毎日本艦兵員五十名宛ヲ以テ荷役援助シ
翌三日横須賀方面行キ八日ニ陸揚スヘキモノ
全部之ヲ了シ東京方面行キモ八日第十六駆
逐艦ニ品川ニ轉送セリ此間天候比較的良好
ニシテ作業順調ニ經過セリ十月十日横須賀
發途中猛烈ナル颱風遭遇シ約一晝夜ニ亘リ

0273

難行航ヲ續ケタル各部支障ナク十三日吳ニ
歸港シ任務ヲ終了ス其成績亦良好ナリ

(張一)

0274